

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「第1病棟（ローズ病棟）」

「老人性認知症疾患治療病棟Ⅰに変わって」

看護師長 川田 知子

第1病棟はこれまで介護保険制度の指定介護療養型医療施設・老人性認知症疾患療養病棟でしたが、今年3月1日から老人性認知症疾患治療病棟Ⅰに変わりました。利用者やご家族の中には「何が変わったの？これまでと同じでは？」と疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。今回この場に機会が得られましたので、その一端を少しでもご理解していただけるようご説明できればと思います。

老人性認知症疾患治療病棟Ⅰは、著しい認知症状のため在宅や施設、病院での対応が困難になった方に入院していただく病棟です。精神科的医療と集中的ケアを提供し、認知症高齢者の情緒の安定化を図り残存能力賦活や生活環境をコントロールすることで認知症による不適応症状を改善し、安定した日常生活を回復できるようリハビリテーションを中心とした活動を行うことを目的としています。

施設基準では、患者さま4人に対し看護師1人、患者さま5人に対し看護補助者1人、専従の作業療法士1人、精神保健福祉士1人の計24名のスタッフが入院中の方のお世話に当たらせていただきます。今回の病棟体制の変更によりスタッフを計6名増員しました。生活機能回復のための訓練および指導も、1日4時間・1週間に5回実施しています。病棟内に多職種スタッフが勤務しているため、みなさま各自の問題をそれぞれの職種の視点を生かしてカンファレンス検討することにより、より早い対応が可能となります。

当病棟では、家庭や施設、一般病院での対応が非常に困難となり入院に至るケースが多くあります。例えば、夜間に大声を出したり自室が分からず入眠中の方を起こしたりしてしまう夜間せん妄や、他のみなさまへの迷惑行為、歩行不安定な中での徘徊、暴力、危険行為、ケア提供への拒否、などです。またさまざまな身体疾患も合併しており、少しバランスを崩すと重篤な状態にもなりかねない方も大勢おられます。このような方々に対しては、精神的対応を主とした身体的対応も必要になります。

ハード面では当病棟は構造上の特殊性があり、病棟の出入り口を施錠し自由に外へは出られない閉鎖病棟

になっています。これは、認知症高齢者の方が事故につながる危険を防ぐために閉鎖処遇が必要なためで、精神保健福祉法という法律に基づいています。しかし患者さまやご家族を含めた周囲の方々は大変な違和感を覚えられよう、最初に十分な説明を行うことをご理解をいただいています。

ソフト面での特性もあります。医療の必要性の高い認知症高齢者の問題行動に対して、主治医の薬物療法にあわせたケアプランを立案し個別ケアに当たります。認知症状の問題の中には、認知症高齢者の言動の意味を理解できない、本人から情報を得られないといったこともあります。対応としては、常にスタッフ間の情報交換を行い、毎日注意深く観察することにより「いつもの行動・いつもの訴え」と判断することなく、言動・身体面の変化を少しでも早く察知できるように努めています。また即時対応が必要とされている方には、できる限りマンツーマンでスタッフが付き添います。

このように多方面からの対応を試みることにより、治療と療養の環境の中でみなさまが自分に適した居場所を見つけその人らしく生活できるよう環境を整えることが、病棟スタッフの役割であると考えています。我々看護師の力は人間関係の調整に非常に重要な役割を果たすものであるという考えの基に、今後尚いっそう充実した個別ケアを提供できるようチームスタッフが連携を取り合い、日々の業務に努めていきたいと思っております。



第1病棟 ホール

「OTとして」

作業療法士 池内 真木子

1病棟は他病棟とは異なり、専従の精神保健福祉士と作業療法士が1名ずつ配置されています。そこで私は作業療法士として他職種の協力を得て生活機能回復訓練として、1日4時間・1週間に5回を基本とした時間枠で1病棟入院中の皆さまに活動を提供しています。

主な活動内容は、日常生活動作(入浴・整容動作・食事場面など)の声かけ・介助、大集団でのレクリエーション活動、小集団での散歩・買い物・回想法などとなっています。活動の目的は主として、自分で出来ることではできるだけ他者の手を借りず自分のペースで行えるよう残存機能の維持、日中に活動し夜ゆっくりと休めるよう生活リズムの確立、まだまだ自分はやれるという自信の回復があります。また、1病棟は認知症疾患の専門病棟であり、重度の方もたくさんおられます。無為に過ごすことが多くなり単調な毎日になると、認知症の進行を早めてしまう可能性もあるかもしれません。訓練時間は少しでも刺激のある楽しいひと時になるよう、趣味的活動の提供としての役割も大きいと思います。レクリエーション活動中に、私の顔を見て「今日は何をしますか?」と声を掛けて下さったり普段はあまり見せない楽しそうな表情や仕草を見ると、私自身も良い刺激になります。

また病棟内での専従勤務は、多職種間の連携を取りやすいといった利点があります。入院中の方を各職種の専門的な視点から多角的に分析することにより、より本人らしさやその人に必要なものが見えてくると思われれます。皆さまにはそれぞれこれまで生きてきた歴史があり、好みがあり、思いがあります。そのうえ認知症レベルもそれぞれ異なっています。そこで今後とも多職種との連携を大切にしながら、皆さま個々人に応じた活動プログラムの設定や個別の関わり方を常に考えていかなければならないと思っています。



生活機能回復訓練の様子



「PSWとしての関わり」

精神保健福祉士 小阪 智子

老人性認知症疾患治療病棟 I での精神保健福祉士(以下 PSW)の日々の業務として受診・入院・退院の際の援助、入院中の相談援助があります。また作業療法士が行う生活機能回復訓練にも参加し、皆さまとレクリエーションや買い物などを行っています。PSW が生活機能回復訓練に参加することはこの病棟ならではのことであり、私自身当初はとまどいもありましたが、最近では皆さまと一緒にレクリエーションや散歩をすることを楽しみにしています。

レクリエーションを通して皆さまの考えや思っていることを伺うことがあります。子供の頃のことや結婚してからの苦勞、家族への思いなどお話していただけます。しかし認知症の症状のために言語的コミュニケーションを図ることが難しかったり、話の内容が二転三転し本人の考えを把握することが困難となることがあります。その様な時は表情や仕草から推測したり、家族から本人がこれまでどのような生活をされてきたのか、何を好み何を嫌うのか、といったことを伺うことで、ご本人にとって何が一番良いのか、どのような生活を送りたいと思っているのかを考えます。また本人の話や家族の希望

はケース会議等を通じて多職種で共有し、日々のケアに生かす様にしています。このように家族の考えや思いを病棟に伝え、また病棟からの考えを家族に伝えること、つまり家族と病棟をつなぐこともPSWの大きな役割と思っています。

高齢社会を迎え、介護保険制度も制定され高齢者の為の福祉サービスは充実してきました。しかし「老老介護」「長期介護」と言った言葉に代表されるように介護に関する課題はまだあります。実際家族の方から、「本人から目が離せず疲れていた」「本人の様子が変わった時どうすればいいか分からなかった」といった声をよく耳にします。今後も老人性認知症疾患治療病棟 I のPSWとして「ローズ便り」を通じて皆さまに病棟の活動報告や福祉制度の情報提供することで、少しでもお役に立てればと思っています。

老人性認知症疾患治療病棟 I として早や半年が過ぎました。まだまだ改善すべき点は多々ありますが、これからも本人や家族の思いを大切に考え、活動していきたいと思っています。

三船病院 委員会活動紹介

「院内感染対策委員会」

委員長 医師 濱窪 俊二

【 目的 】

院内感染に対する予防を推進し、それに関する事項を審議することを目的としています。

【 活動内容 】

- ・ 必要な活動についてまとめた感染対策マニュアルを作成し、適宜改訂します。
- ・ 院内で発症している感染症を把握し、それに対する適切な治療や集団発生を防ぐ方法を検討した上で、その内容を実践に移すよう各部署へ必要な対応方法を指導、助言します。
- ・ 年4回、全職員を対象に感染対策の研修を行い、適切な方法を理解・実践できるよう促します。
- ・ できるだけ多くの方(特別な副反応のある人以外は全員して頂くのが理想)に、予防接種を受けて頂くよう促します。
- ・ 原則毎月1回委員会を開催。上記活動内容についての現状把握、必要な対策を適切にできているか検討し、今後必要な事柄について審議します。(感染症が集団発生した時など、必要に応じて臨時でも行います。)

【 今後の課題 】

今年度はB型肝炎ワクチンを希望する職員が多かったため、それについての研修を行いメリット・デメリットをよく理解した上で、できるだけ多くの職員にワクチンを受けてもらえるよう積極的に働きかけていきたいと考えています。昨年の職員のインフルエンザワクチン接種率は、48%と低い数字でした。今年はせめて70%を達成したいと思います。受けていない人の中には、ワクチンに関する知識が不十分なため必要以上に怖がっている場合もあるかもしれません。それを考慮し、ワクチン接種シーズンの少し前に、インフルエンザワクチンについて研修を行う予定にしています。

もし自分や身内の人が入院した時、職員からインフルエンザをうつされその職員がワクチンを受けていないと判ったら、自分はどう思うでしょうか。私たち病院職員はそういう立場にあることをもう一度考える必要があると思います。



三愛会 トピックス

★三船病院家族会

5月21日(日)9:30～三船病院家族会を開催。同日第6回家族教室も行き、『デイケアについて』と題しデイケアの紹介と見学を行いました。皆様に参加して頂き、地域生活を考える良い機会となりました。

★三船病院夏祭り

8月26日(土)17:30～毎年恒例の三船病院夏祭りを開催しました。今年は讃岐国分寺子供太鼓とみなみかじエイサー団の皆様をお招きし、楽しい一時を過ごしました。



みなみかじエイサー団の皆様

【三船病院における患者様の権利】

1. 人格や価値観などが尊重され、良質な医療を公平に受ける権利
2. 病状や診療についての十分な説明を受ける権利
3. 自らの意思で治療方法などを選択する権利
(但し、非自発的入院の場合は制限されることがあります)
4. 個人情報の秘密が守られる権利
5. 自身の診療録の開示を求める権利(但し、当院の診療情報は供指針による手続きが必要です)



【介護老人保健施設 福寿荘】

事務職員 岩井 紀子

今回は福寿荘での事務職についてお話させていただきます。まず受付業務があり、電話での対応はもちろんのこと、当施設に面会・見学などに来られる方の対応、相談に来られる方と相談員や担当者の取次ぎ業務などがあります。次に事務処理として、利用者の利用料計算・介護給付費の請求処理・入所者の小遣い額の管理・現金出納や、介護保険に係わる各種手続きの案内などがあります。これらの業務をそれぞれ円滑に行えるよう留意しています。また7月に事務長が交代し、8月からは家族相談室より居宅介護支援専門員と支援相談員が事務室の中に移動してくるなど、事務所の中が変わりました。事務職員と相談員とは業務上の関わりも深く、机を並べることで情報交換・連携がよりスムーズにできるようになりました。相談者への対応の時間短縮にもつながっています。

高齢化社会が急速に進む中、地域の中で施設の担う役割を今一度顧みる必要があります。そのために福寿荘では、一人ひとりにあった看護・介護・リハビリを目指しています。高齢で不安を抱える方や家族の方が当施設を見て安心して利用していただけるよう、まず玄関である事務所から誠心誠意を心がけ、職員の一員として初心に帰り職務に励みたいと考えています。



【グループホーム 五月荘】

世話人 尾形 喜代治

グループホーム五月荘の説明をさせていただきます。まずグループホームとは世話人の支援を受けながら共同生活を送る住居で、一定程度の自活能力があり共同生活を送ることに支障のない人が対象となります。五月荘は平成6年5月に開設され現在は定員の4名(男性2名女性2名)で、長い方はもう10年程住まれています。日中はそれぞれ買い物や趣味、家事を行うなど自由に時間を過ごされる方や、地域生活支援センターや病院の外来OTに参加される方もおられます。食事は朝、昼を各自で準備し、夕食は世話人が給食を配達しています。入居者の方たちは夕食を一緒に囲み、食事作りや買い物を共同で行うなど和やかに生活されています。

世話人の役割としては入居者の生活の支援・援助が主で、身の回りの不十分な点を助言したり手伝っています。午後の時間を一緒に過ごしながらか相談を受けたり掃除を行うことで、入居者の状況を毎日確認できます。またその他関係者とも連携しており、定期的に訪問してくれる地域生活支援センターや病院のケースワーカーらと近況確認や情報交換をしています。それぞれの家族も時々訪ねて来られたり本人が出向いたりしています。今後もこれらのスタッフや家族と協力して、入居者の生活をサポートしていきたいと思えます。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・安全衛生委員会(第2水曜日)

- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第3水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第4水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第4水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第4水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)

《編集後記》

朝夕の風に秋の涼しさを感じるこのごろ皆さまいかがお過ごしでしょうか。今回は第1病棟の特集を致しました。介護保険制度制定後も見直し・改訂と高齢者を取り巻く環境は変わり続けています。今後も動きがあれば三愛 view ローズ便りにてご報告したいと思います。(三船病院相談室PSW)